

令和6年度

# 病虫害発生予察特殊報(第1号)

令和6年8月14日  
神奈川県農業技術センター

病虫害名：チュウゴクアミガサハゴロモ

(学名：*Ricania shantungensis* (Chou & Lu, 1977))

作物名：ブルーベリー（ツツジ科）、オリーブ（モクセイ科）、イヌツゲ（モチノキ科）、コニファー（ヒノキ科）、ジョウリョクヤマボウシ（ミズキ科）、ソヨゴ（モチノキ科）、フェイジョア（フトモモ科）及びマユミ（ニシキギ科）

## 1 発生経過

令和6年5～6月に、県内の樹木類生産者から当所普及指導部を通じて、ハゴロモ類の産卵痕による樹の衰弱等の被害について、原因の診断依頼があった。被害の見られた枝に寄生している幼虫および成虫を採集し、農林水産省横浜植物防疫所に同定依頼した結果、チュウゴクアミガサハゴロモと同定された。

## 2 形態および生態

幼虫は白色、腹部から白い糸状の蠟物質の毛束を広げる（図1及び2）。

成虫は体長14～15mm、前翅長14mm程度で、前翅は茶褐色から鉄さび色であり、前翅前縁中央部の白斑は扁平な半円形かつ輪郭が直線的（図3）である。生態には、不明な点が多い。

## 3 被害および分布と寄主植物

### (1) 被害

成虫と幼虫が枝に寄生し、吸汁する。発生が著しいと排泄物によりすす病を発症する。産卵の際に枝を傷つけることで樹勢を衰弱させる（図4及び5）。直径10mm以下の細い枝に産卵するため、枝が折れることもある。

### (2) 分布と寄主植物

中国を原産地とし、ドイツ、フランス、イタリア、トルコおよび韓国などで分布が確認されている。国内では本州及び九州において分布が確認されている。

本種は広食性で、カバノキ科、クワ科、ブナ科、マメ科、モクセイ科などの寄生が報告されている。本県においては、モクセイ科、ツツジ科、モチノキ科、ニシキギ科、ヒノキ科およびフトモモ科樹種における寄生を確認している。

## 4 防除対策

- 令和6年7月現在、ブルーベリー、オリーブおよび樹木類では本種に登録のある防除薬剤はない。
- 本種の産卵痕がある枝は見つけ次第除去し、適切に処分するなど、耕種的防除に努める。



図 1 幼虫



図 2 幼虫



図 3 成虫



図 4 オリーブ枝における産卵痕



図 5 ソヨゴ枝における産卵痕

神奈川県農業技術センター 病害虫防除部

〒259-1204 平塚市上吉沢1617

TEL 0463-58-0333 FAX 0463-59-7411

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/>